

名古屋東山周辺の昆虫相

II. 甲虫目 (6) ゾウムシ上科

内 藤 通 孝*

Insect Fauna around Higashiyama in Nagoya

II. Coleoptera (6) Curculionoidea

Michitaka NAITO

はじめに

「名古屋東山周辺の昆虫相」各論の第6回として、ゾウムシを取り上げる。ゾウムシは、漢字で「象虫」あるいは「象鼻虫」であり、象の鼻に似た口吻^{こうぶん}をもつことから来ているが、実際には口吻が短くゾウの印象からは程遠いものも多い。本物のゾウの鼻との大きな違いは、ゾウムシの口吻は鼻（呼吸器官）ではなく、消化器官であることである（雌では産卵のための孔あけ器でもある）。また、ゾウの口が長い鼻の根本にあるのに対し、ゾウムシでは口吻の先端に口がある。

雌のゾウムシにとって、長い口吻は産卵の道具であり、一般に口吻の長いものほど長い産卵管をもっている¹⁾。ゾウムシの仲間は、中生代ジュラ紀にハムシ上科（ハムシ科やカミキリムシ科）との共通祖先から分岐したと考えられている。その後、ゾウムシの口吻は二つの方向に進化した²⁾。一つは口器が扁平になり、平らな大顎を噛み合わせて横に長い産卵孔を穿つヒゲナガゾウムシ等となった。もう一つの方向は口吻が筒状になったもので、大部分のゾウムシがこれに属す。また、口吻が短→長→短と進化したクチブトゾウムシ等の仲間（短吻群）では口吻は短く、産卵孔を穿つ機能は失われている。

ゾウムシ上科 Curculionoidea は、日本だけでも約1200種が知られており、世界では数万種に及ぶと推定される。ゾウムシ上科は、研究者によって多少異なるが、ヒゲナガゾウムシ科 Anthribidae、ナガキウムシ科 Platypoididae、キクウムシ科 Solytidae、オトシブミ科 Attelabidae、チョッキリゾウムシ科 Rhynchitidae、オサゾウムシ科 Dryophthoridae、ホソクチゾウムシ科 Apionidae、チビゾウムシ科 Nanophyidae、ミツギリゾウムシ科 Brentidae、イボイボゾウムシ科 Brachyceridae、ゾウムシ科 Curculionidae 等に分けられている³⁾。

本稿では、名古屋市東山周辺で観察されたヒゲナガゾウムシ科、オトシブミ科、チョッキリゾウムシ科、オサゾウムシ科、ホソクチゾウムシ科、ゾウムシ科について纏める。ま

* 生活科学部 管理栄養学科

た、マメゾウムシは、現在ではハムシ上科 *Chrysomeloidea*、ハムシ科 *Chrysomelidae*、マメゾウムシ亜科 *Bruchinae* に分類されるが、「ゾウムシ」の名がついているので、含めて報告する。

観察記録

分類・学名・和名は、『新訂原色昆虫大圖鑑 第Ⅱ巻(甲虫篇)』³⁾、『原色日本甲虫図鑑(Ⅳ)』⁴⁾、および『日本産ゾウムシデータベース』⁵⁾に依った。古いものは採集し、標本として保管しているものが多い。2002年からはデジタルカメラによる写真記録を原則とし、死骸や種名確認等のやむを得ない場合は標本として保存している。生態写真の撮影および標本の採集・保管については、特に記載のないものは筆者による。

表記は簡略にするため、以下の原則に従った。

例数、性(雌雄を鑑別した場合のみ♂、♀の記号を入れた)、採集(観察)年月(日)、観察場所(名古屋市を省略)の順に記した。観察年月日は8桁(年月日の場合)または6桁(年月の場合)で示した。例えば、「2 ex 19970727 昭和区八事本町興正寺」であれば、2例(雌雄区別せず)で、1997年7月27日に名古屋市昭和区八事本町興正寺の境内で記録したことを示している。

体長(原則として口吻を含まず)は、標本の実測値を示し、標本が存在しない種については、括弧内に文献5)による数値を示した。ゾウムシ類は小さい種が多いため、実測は概の値である。

分布は、名古屋市・愛知県については『愛知県の昆虫』⁶⁾を、日本・世界については文献3), 4), 5)を参考にした。日本については、北海道・本州・四国・九州に分布するものは「日本」とし、島嶼は省略した。『愛知県の昆虫』(1990)に名古屋市の記録がない種の学名には*を付した。2009年に『愛知県のゾウムシ類』⁷⁾が出版されたが、目録はオサゾウムシ科、イネゾウムシ科(本稿ではゾウムシ科に含めた)、ゾウムシ科のみであり、今回は『愛知県の昆虫』を基礎文献として用いた。

ゾウムシ上科 *Curculionoidea*

ヒゲナガゾウムシ科 *Anthribidae*

熱帯に多く、枯木、キノコ類、糸状菌等につくものも多く、成虫は基本的に菌食性である⁵⁾。トウモロコシの種子を加害するものもある¹⁾。朽木やキノコに口吻で傷をつけ、産卵管で卵を産み込む⁵⁾。

1 マダラヒゲナガゾウムシ *Opanthribus tessellatus**

標本：1 ex 19920701 昭和区鶴舞町(写真1a, b)

体長：3.5 mm。『愛知県の昆虫』には名古屋市からの記録はない。分布：日本、朝鮮半島、中国、千島、サハリン、シベリア、ヨーロッパ。

2 ウスモンツツヒゲナガゾウムシ *Ozotomerus japonicus*

標本：1 ex 20080623；1 ex 20090618(写真2)；1 ex 20100626；1 ex 20100628

いずれも千種区星が丘元町にある椋山女学園大学構内の燈火に飛来したものである。体長：7~9 mm。クヌギ、ケヤキ等の硬い枯木につく。分布：本州・四国・九州、サハ

リン。

3 キノコヒゲナガゾウムシ *Euparius oculus*

標本：1♂2♀ 20090626 千種区東山公園（写真3a：♂♀，後ろが♂；b：♀；c：黒化型♀；d：♂）

体長：7～8 mm。降雨の多かった2009年の6月末にキノコ（ヒダナシタケ目多孔菌科，おそらくシミタケ）に来ているのを見かけた。1♀は完全黒化型（写真3c）であった。分布：日本，朝鮮半島。

4 シロヒゲナガゾウムシ *Platystomos sellatus**

標本：1♀ 19990605 昭和区滝川町（写真4）

体長：13 mm。『愛知県の昆虫』には名古屋市からの記録はない。ケヤキ，クヌギ等に見られ，そこに発生したカワラタケなどを食べる⁸⁾。分布：日本，千島。

5 シロモンヒゲナガゾウムシ *Gonotropis crassicornis**

標本：1 ex 19690721 昭和区広路町新福寺（写真5a, b）

体長：4 mm。40年以上前に一度のみ採集した。『愛知県の昆虫』には愛知県からの記録はない。文献4)には「少ない」とある。分布：北海道・本州，サハリン。

6 シリジロヒゲナガゾウムシ *Androceras flabellicorne**

標本：1♀ 19970629 昭和区滝川町（写真6）

体長：5 mm。『愛知県の昆虫』には名古屋市からの記録はない。触角は，♂では第4節から広がり，第7節のみ白色毛を有し，♀では先端3節が広がる。分布：北海道・本州・九州，朝鮮半島，サハリン。

7 スネアカヒゲナガゾウムシ *Autotropis distinguenda*

標本：1 ex 19910424 昭和区滝川町（写真7a, b）

体長：3.5 mm。クズ，フジの枯れ蔓につく。分布：日本，朝鮮半島，東シベリア。

8 シリジロメナガヒゲナガゾウムシ *Phaulimia confinis**

標本：1 ex 20030427 昭和区八雲町（写真8a, b）

体長：4 mm。『愛知県の昆虫』には愛知県からの記録はないが，文献4)には「やや多い」とある。上翅端は灰白色（写真8b）。分布：本州・四国・九州，朝鮮半島，東シベリア。

オトシブミ科 *Attelabidae*

オトシブミは，「落とし文」であり，「公然と言えないことを記して，わざと通路などに落としておく文書。落書」（『広辞苑』第5版）とある。葉を巻いて，その中に産卵し，揺り籠（揺籃）を作るのは，ゾウムシ上科のうち，オトシブミ科とともに，チョッキリゾウムシ科の一部が含まれる。ただし，揺籃は切り落とさないで，葉についたままのものもある⁹⁾。

9 カシルリオトシブミ *Euops splendidus*

観察・写真撮影：多数 20090629 千種区東山公園（写真9a～c）

標本：1 ex 20050717 昭和区八事本町興正寺

体長：3～4 mm。東山周辺ではイタドリに多く（写真9a, b），コナラ，フジ等にもつく。和名にあるカシ類につくことは稀であるという⁹⁾。ヒメジョオンの花にいるのを見たこともあり，花粉を食べると思われる（写真9c）。分布：本州・四国・九州。

オトシブミ亜科のうち、ルリオトシブミ属だけは、葉の縁をテープ状に切って揺籃にするが、他は1枚の葉で1個の揺籃を作る²⁾。

10 ヒメクロオトシブミ *Apoderus erythrogaster*

観察・写真撮影：多数 千種区東山公園 (写真10a~e)

標本：1 ex 196705 昭和区楽園町；2 ex 20100617 千種区東山公園；1 ex 20110618 千種区星が丘元町 (燈火に飛来)；1 ex 20120518 名東区猪高緑地

体長：4~5 mm。東山周辺に極めて普通で、コナラ、クヌギ、バラ等につく。東山周辺には、黄腹型 (腹部と脚が黄色, 20100617, 写真10a, b 腹面) と黒色型 (全身黒色, 20090426, 写真10e) の他、中間型 (脚が黒色と黄色の中間, 20100617, 写真10c, d 腹面) も見られる。完成した揺籃を切り落とす場合と切り落とさない場合とがある⁹⁾。分布：本州・四国・九州。

チョッキリゾウムシ科 Rhynchitidae

若葉、新芽、蕾、若果実などに咬傷や切断線を入れ、その先に産卵する¹⁾。オトシブミ科の亜科とすることもある。

11 ハイイロチョッキリ *Cyllorhynchites ursulus**

標本：1♀ 19920915 昭和区滝川町 (集合住宅8階に飛来)；1♂ 19960904 昭和区滝川町；1♂ 200610 昭和区八事本町興正寺；1♀ 20110723 千種区東山公園 (写真11)

体長：6~9 mm。『愛知県の昆虫』には名古屋市からの記録はない。♂は前胸下面両側に棘状突起を有する。コナラ等の実に産卵し、枝ごと切り落とす⁹⁾。分布：本州・四国・九州、韓国、中国、極東ロシア。

12 ヒメケブカチョッキリ *Involvulus pilosus*

標本：1 ex 19920427 昭和区滝川町；1 ex 19930516 昭和区八事本町興正寺 (写真12)

体長：4 mm。ノイバラ、キイチゴ等の新梢を萎れさせて産卵し、葉は巻かない⁹⁾。分布：本州・四国・九州、朝鮮半島、中国、千島、サハリン。

ホソクチゾウムシ科 Apionidae

幼虫は生きた植物の組織内で育つ¹⁾。

13 アカクチホソクチゾウムシ *Microconapion pallidirostre**

標本：1 ex 20000507 昭和区八事本町興正寺 (写真13)

体長：5~7 mm。『愛知県の昆虫』には名古屋市からの記録はない。和名は赤い口の「細口ゾウムシ」の意味である。分布：本州・四国・九州。

ゾウムシ科 Curculionidae

ゾウムシ科では、それまで直線状であった触角の1節目が伸長して膝状に曲がり、口吻側面の溝に収まるようになった。そのため。産卵孔を穿つ際に触角が邪魔にならなくなり、口吻基部まで挿入可能になった⁵⁾。

ゾウムシ科は多様であり、いくつかの亜科に分けられるが、異論が多いので、ここでは、短吻群と長吻群に分けることにする。

短吻群

14 ケブカクチブトゾウムシ *Lepidepistomodes fumosus*

観察・写真撮影：1 ex 20070430 昭和区八事本町興正寺（写真14a）

標本：1 ex 19980517 昭和区滝川町；1 ex 20000507 昭和区八事本町興正寺；1 ex 20010603 昭和区八事本町興正寺；1 ex 20010610 昭和区八事本町興正寺；1 ex 20090429 昭和区八事本町興正寺（写真14b）

体長：5～7 mm。触角基節は強く湾曲する。クヌギ，シイ等につく。分布：本州・四国・九州，朝鮮半島。

15 コカシワクチブトゾウムシ *Lepidepistomodes griseoides**

標本：1 ex 20090421 昭和区八事本町興正寺（写真15）

体長：3 mm。『愛知県の昆虫』には名古屋市からの記録はない。分布：本州・四国・九州，朝鮮半島。

16 ウスアオクチブトゾウムシ *Lepidepistomus elegantulus*

観察・写真撮影：1 ex 20100701 昭和区滝川町（写真16）

（体長：3.6～4.5 mm⁵）。分布：本州・九州，朝鮮半島。

17 ヒレルクチブトゾウムシ *Pseudoedophrys hilleri**

標本：1 ex 20080706 昭和区滝川町；1 ex 20090628 昭和区八事本町興正寺；1 ex 20100706 千種区星が丘元町（燈火に飛来）；1 ex 20100723 千種区星が丘元町（燈火に飛来）；1 ex 20120826 昭和区滝川町（燈火に飛来）（写真17）

体長：3.5～4.5 mm。『愛知県の昆虫』には愛知県からの記録はない。モモ，ウメ，ナシ，サクラなどにつく。分布：本州・四国・九州，朝鮮半島，北アメリカ（移入）。

18 クリイロクチブトゾウムシ *Cyrtepistomus castaneus**

標本：1 ex 19940504 昭和区八事本町興正寺（写真18）

体長：6 mm。『愛知県の昆虫』には名古屋市からの記録はない。クヌギ，クリなどにつく。分布：本州・四国・九州，朝鮮半島，中国，アメリカ（移入）。

19 オオクチブトゾウムシ *Phyllolytus variabilis*

標本：1 ex 20050730 昭和区八事本町興正寺（写真19a）；1 ex 20070709 千種区東山公園（写真19b）

体長：6～8 mm。コナラ，クヌギ，クリ等につく。分布：本州・四国・九州，朝鮮半島，中国，東シベリア。

20 トゲアシクチブトゾウムシ（トゲアシゾウムシ） *Anosimus decorates**

観察・写真撮影：1 ex 20110814 千種区東山公園（写真20）

（体長：3.8～4.0 mm⁵）。『愛知県の昆虫』には名古屋市からの記録はない。他のクチブトゾウムシ族と異なり，口吻の先端は突出する。クヌギ，クリ，ナラ等につく。分布：本州・四国・九州，朝鮮半島。

21 シロコブゾウムシ *Episomus turritus*

観察・写真撮影：♂♀（交尾中）20040515 名東区藤巻町；♂♀（交尾中）20050531 名東区藤巻町；♂♀（交尾中）20050620 名東区藤巻町（写真21a）；1 ex 20060729 千種区東山公園；1 ex 20070509 千種区東山公園；1 ex 20080531 千種区東山公園

標本：1 ex 20110627 千種区東山公園 (写真21b)

体長：14 mm。ハギ、フジ、ネムノキ、ニセアカシア等のマメ科植物に多い。東山周辺ではハギに見られることが多い。分布：本州・四国・九州，朝鮮半島，中国。

22 スグリゾウムシ *Pseudocneorhinus bifasciatus*

観察・写真撮影：1 ex 20080716 (写真22a)；1 ex 20090712；1 ex 20100701 (写真22b)；1 ex 20110723 何れも千種区東山公園。

標本：1 ex 196407 瑞穂区；1 ex 19911013～19921120 昭和区滝川町；1 ex 20110723 千種区東山公園

体長：4.5～5 mm。「スグリ」は、フサスグリの葉を食べることから来ているが、雑食性である。単為生殖をする。飼育下では成虫越冬し、2度越冬して約2年生存したのものもある(稲沢市産)。分布：日本，朝鮮半島，中国，北アメリカ。

23 コフキゾウムシ *Eugnathus distinctus*

観察・写真撮影：多数 20080721 昭和区八事本町興正寺 (写真23a)

標本：1 ex 19650720 瑞穂区；1 ex 19890806 昭和区広路町南山；♂♀ 20090524 昭和区八事本町興正寺 (写真23b, c)

体長：4.5～5.5 mm。東山周辺に極めて普通で、クズに多い。ハギ、フジ、ダイズにもつく。分布：本州・四国・九州，朝鮮半島，台湾，中国。

24 ケチビコフキゾウムシ *Sitona hispidulus**

標本：1 ex 19960924 緑区大高緑地公園 (写真24)

体長：4 mm。『愛知県の昆虫』には愛知県からの記録はない。上翅に直立する長い刺毛がある。ヨーロッパ原産で、牧草等とともに移入されたと考えられている。分布：北海道・本州・九州，全北区。

長吻群

25 ヤサイゾウムシ *Listroderes costirostris**

標本：1 ex 20010728 昭和区滝川町 (写真25)

体長：9 mm。『愛知県の昆虫』には名古屋市からの記録はない。ブラジル原産で、南北アメリカ，オーストラリア，アフリカに移入している。日本では1942年に岡山県で最初に発見され、現在では、北海道を除き、全国的に分布を拡大している。アブラナ科，ナス科，セリ科，キク科等の野菜を食害する。単為生殖で増える。分布：本州・四国・九州，台湾，朝鮮半島，オーストラリア，ニュージーランド，アフリカ，南北アメリカ。

26 アルファルファタコゾウムシ *Hypera postica**

観察・写真撮影：1 ex 20071208 昭和区滝川町 (飛来) (写真26a)

標本：1 ex 20001115 昭和区鶴舞町；3 ex 20040915 昭和区滝川町 (飛来) (写真26b)；1 ex 20091018 昭和区滝川町 (飛来)

体長：5 mm。『愛知県の昆虫』には愛知県からの記録はない。12月に飛来したこともある(写真26a)。ヨーロッパ原産で、中東，南アジア，東アジア，北アフリカ，北米などに移入分布する。日本では1982年に福岡県で初めて発見され、現在では全国的に見られる。愛知県では1998年に最初に確認されている。アルファルファ，レンゲ，シロツメクサ，カラスノエンドウ等を食害する。分布：北海道・本州・九州，朝鮮半島，ヨーロッ

パ、北アメリカ。

タコゾウムシ類(タコゾウムシ亜科 Hyperinae)の多くは牧草類の害虫で、牧草の移動に伴って世界的に分布を拡大している。

27 オオタコゾウムシ *Donus punctata**

標本：1 ex 19990912 昭和区八事本町(写真27a)；1 ex 20040928 名東区藤巻町(写真27b)

体長：7 mm。『愛知県の昆虫』には愛知県からの記録はない。シロツメクサ等につく。アルファルファタコゾウムシに似るが、より大型である。南ヨーロッパ原産で、日本では1978年に横浜で発見され、愛知県では1997年に豊橋で最初に採集された。アルファルファタコゾウムシと異なり、大きな被害は出ていない。分布：本州、朝鮮半島、ヨーロッパ、北アメリカ。

28 ツツゾウムシ *Carcilia strigicollis*

標本：1 ex 20090615 千種区東山公園(写真28、背部についている橙色のものはダニ)
体長：11 mm。各種広葉樹の枯木につく。分布：日本、朝鮮半島、中国、東シベリア。

29 オジロアシナガゾウムシ *Ornatacides trifidus*

観察・写真撮影：1 ex 20070701 昭和区滝川町(写真29a)；1 ex 20111023 名東区猪高緑地(写真29b、クズの蔓にしがみついている)

標本：1 ex 19930912～19940720 昭和区八事本町興正寺；1 ex 19980720 昭和区八事本町

体長：9～10 mm。「アシナガ」は前肢が長いことから来ている。クズに普通に見られ、幼虫はクズの蔓に虫癭(虫こぶ)の一種クズクキツトフシを形成する¹⁰⁾。飼育下では成虫で越冬する。分布：本州・四国・九州、朝鮮半島、台湾、中国。

30 オリーブアナアキゾウムシ *Pimelocerus perforatus**

標本：1 ex 19920629 昭和区滝川町；1 ex 20050827 昭和区滝川町；1 ex 20110611 昭和区八事本町興正寺(写真30)

体長：14～15 mm。『愛知県の昆虫』には名古屋市からの記録はない。オリーブ、イボタノキ、ネズミモチを食害する。分布：本州・四国・九州、朝鮮半島、台湾、中国、東シベリア。

31 クリアアナアキゾウムシ *Pimelocerus exsculptus*

標本：3 ex 19910612 昭和区滝川町(燈火飛来)；1 ex 20040609 昭和区滝川町；1 ex 20060528 昭和区滝川町(写真31)；1 ex 20070527 昭和区八事本町興正寺

体長：13～15 mm。クリを食害する。分布：日本、朝鮮半島。

32 マダラアシゾウムシ *Ectatorhinus adamsii*

写真：1 ex 20090710 昭和区滝川町(写真32a, b)

標本：1 ex 19660916 昭和区広路町新福寺

体長：15 mm。写真32bは「死んだふり」擬態(擬死)しているところで、ゾウムシの仲間には、擬死するものが多い。アラカシ、ヌルデからとれるという⁴⁾。分布：本州・四国・九州、朝鮮半島。

33 ニセマツノシラホシゾウムシ *Shirahoshizo rufescens**

標本：1 ex 19920901～19940720 昭和三区滝川町（写真33）

体長：8 mm。『愛知県の昆虫』には名古屋市からの記録はない。前胸の後半は両側が平行で次種と区別される。飼育下では少なくとも2回成虫で越冬し、約2年生きる（標本の写真は飼育後のもので、斑紋は消失し、黒化している）。マツを食害する。分布：本州・四国・九州、朝鮮半島、中国、インド、東シベリア。

34 マツノシラホシゾウムシ *Shirahoshizo insidiosus*

標本：1 ex 19901023～19920201 昭和三区滝川町（写真34）

体長：5.5 mm。前種よりやや小型で、前胸は中央より後方へやや狭まる。飼育下では成虫で越冬する（写真は飼育後のもの）。マツを食害する。分布：本州・四国・九州、千島、朝鮮半島。

35 イチゴハナゾウムシ *Anthonomus bisignifer*

標本：2 ex 19910427 昭和三区滝川町（写真35a, b）

体長：2.5 mm。バラ、イチゴ等の蕾に産卵する。体色には変異が多い。分布：日本、朝鮮半島、千島、サハリン、東シベリア。

36 エゾヒメゾウムシ *Baris ezoana**

標本：1 ex 20100616 千種区東山公園（写真36）

体長：3 mm。『愛知県の昆虫』には名古屋市からの記録はなく、穂積¹¹⁾は「当地方では稀である」と述べている。ヨモギに多い。分布：北海道・本州・九州、朝鮮半島。

37 ジュウジチビシギゾウムシ *Archarius pictus*

標本：1 ex 19881003 昭和三区滝川町；1 ex 19910427～19920102 昭和三区滝川町；1 ex 20080422 昭和三区八事本町興正寺（写真37）

体長：2～2.5 mm。「シギ」は口吻の形状が鳥の鷓に似ていることから来ている。コナラ、カシなどに見られる。アベマキアカタマフシ（虫癭の一種）に寄生する¹¹⁾。分布：本州・四国・九州、朝鮮半島、中国、千島、サハリン、東シベリア。

シギゾウムシ類には、本種のように虫癭に産卵する小型種と38～41のように種子に産卵する中・大型種とがある。

38 アイノシギゾウムシ *Curculio aino**

標本：1 ex 19960924 緑区大高緑地（写真38）

体長：3.5 mm。『愛知県の昆虫』には愛知県からの記録はない。本個体は、通常図示されている個体³⁻⁵⁾より明るい褐色である。ハンノキに多いという⁴⁾。分布：北海道・本州・四国、千島、サハリン。

39 クヌギシギゾウムシ *Curculio robustus**

標本：1 ex 19720812 昭和三区；1 ex 19900828 昭和三区滝川町；1 ex 19920831 昭和三区滝川町；1 ex 19930812 昭和三区滝川町；1 ex 19951009 昭和三区滝川町；1 ex 19960907 昭和三区滝川町；1 ex 20020915 昭和三区滝川町；1 ex 20070810 昭和三区滝川町；1 ex 20110727 昭和三区滝川町（写真39a）；1 ex 20110811 千種区東山公園；1 ex 20110918 昭和三区滝川町（燈火に飛来）（写真39b）

体長：8.5～10 mm。『愛知県の昆虫』には愛知県からの記録はないが、東山周辺では普通に見られる。成虫は7～9月に出現し、クヌギの実に産卵する。分布：本州・九州、朝鮮半島、中国。

40 クリシギゾウムシ *Curculio sikkimensis**

標本：1♀ 19941102 昭和区八事本町興正寺；1♀ 200511 昭和区滝川町；1♀ 20091016 千種区星が丘元町椋山女学園大学構内（燈火に飛来）（写真40a）；1♀ 20091024 昭和区滝川町（写真40b）；1♀ 20101001 千種区星が丘元町（燈火に飛来）（写真40c）；1♂ 20101015 昭和区滝川町（燈火に飛来）；2♂ 20101016 昭和区滝川町（燈火に飛来）

体長：6～8 mm。『愛知県の昆虫』には名古屋市からの記録はなく、穂積¹¹⁾は「栗の害虫として知られているが、稀である」と述べているが、東山周辺では普通に見られる。成虫は9～11月に出現し、クリの実に産卵する。クヌギシギゾウムシより、やや小型で、体が細長く、出現時期が遅い。上翅の後ろ寄りに灰色横帯がある。♀は♂より口吻が長い。分布：本州・四国・九州，朝鮮半島，中国，インド。

41 ニセコナラシギゾウムシ *Curculio conjugalis**

標本：1 ex 20110625 昭和区滝川町（燈火に飛来。内藤美智子採集）（写真41）

体長：8 mm。『愛知県の昆虫』には名古屋市からの記録はない。また、愛知県田原町からの記録もコナラシギゾウムシであると判明したとのことである⁷⁾。分布：本州・九州，朝鮮半島，中国，東シベリア。

42 カシワノミゾウムシ *Orchetes japonicus**

標本：1 ex 19910629 昭和区滝川町；1 ex 19920412 昭和区滝川町；1 ex 19930504 昭和区滝川町（自宅集合住宅8階に飛来）；1 ex 20000514 昭和区八事本町興正寺；1 ex 20100421 千種区東山公園；1 ex 20110726 天白区植田山（写真42a, b）

体長：3.5～4 mm。『愛知県の昆虫』には名古屋市からの記録はなく、一宮市の記録が唯一で、「普通種なのに何故か（愛知）県下は少ない」とあるが、東山周辺で普通に見られる。幼虫はカシワ，ナラ等の新葉に潜る。分布：北海道・本州・九州，朝鮮半島，東シベリア。

ノミゾウムシ類の幼虫は葉に潜り，食害部で蛹化する。成虫の後腿節が肥大して飛び跳ねるものが多い¹⁾。

43 アカアシノミゾウムシ *Orchetes sanguinipes**

標本：1 ex 19910629（写真43a, b）；1 ex 19920612（写真43c, d）；1 ex 19930504（写真43e, f）いずれも昭和区滝川町

体長：2.5～3 mm。『愛知県の昆虫』には名古屋市からの記録はなく、「何故か（愛知）県下では余り採集されない」とある。幼虫はケヤキの葉に潜る。色彩は変異が多い。分布：本州・四国・九州，朝鮮半島。

44 アラゲマダラノミゾウムシ *Orchestes villosus**

標本：1 ex 19910505 昭和区滝川町；1 ex 19970528 昭和区滝川町；1 ex 19980913 昭和区八事本町興正寺（写真44）；1 ex 20110819 昭和区八事本町

体長：2 mm。『愛知県の昆虫』には愛知県からの記録はないが，東山周辺で普通に見られる。小楯板後方の白い紋が目立ち，ムネスジノミゾウムシ *Orchestes amurensis* に似る。分布：本州，九州。

オサゾウムシ科 Dryophthoridae

単子葉植物につくものが多い¹⁾。

45 トホシオサゾウムシ *Aplotes roelofsi*

観察・写真撮影：1 ex 20120505 名東区牧野ヶ池緑地 (写真45a, b)；1 ex 20120618 名東区藤巻町 (写真45c)

標本：1 ex 19990619 昭和区滝川町

体長：7 mm。トホシ (十星) であるが、前胸背板の正中紋と上翅の4つの紋が目立つ。ツクサの茎に産卵し¹²⁾、成虫はクヌギで採れるという⁴⁾。分布：本州・四国・九州、朝鮮半島、中国。

マメゾウムシ亜科 Bruchinae (ハムシ上科 Chrysomeloidea ハムシ科 Chrysomelidae)

マメ科植物の種子を加害するものが多い¹⁾。エンドウゾウムシ *Bruchus pisorum*、ソラマメゾウムシ *Bruchus rufimanus*、アズキマメゾウムシ *Callosobruchus chinensis* 等、世界的害虫が含まれる。

46 チャバラマメゾウムシ *Callosobruchus ademptus**

標本：2 ex 200210 昭和区八事本町 (写真46a, b)

体長：2.5 mm。『愛知県の昆虫』には名古屋市からの記録はなく、新城市の記録が唯一で「少ない」とある。幼虫はクズの実につき、成虫はやブジラミなどの花に集まるというが、採集した個体はセイタカアワダチソウの花で花粉を食べていると思われた。分布：本州・九州とあるが⁴⁾、世界的に分布していると思われる。

過去に確実に生息していたが、証拠が存在しないもの

過去50年以内に確実に名古屋市東部の東山周辺に生息していたが、現在、写真、標本等の証拠が残っていないものとして、次のものがある。

47 オオゾウムシ *Sipalinus gigas*

標本は存在しているが、何れも名古屋市以外のものである。多くの樹種を加害するが、マツ類 (アカマツ、クロマツ、リュウキュウマツ) 枯死木の加害が多いようである¹³⁾。新しいマツ枯死木の匂い成分を含む誘引剤によって、マツノマダラカミキリ *Monochamus alternatus* とともに誘引される¹³⁾。オオゾウムシの幼虫が食べる新しい枯死材は栄養条件が悪く、競争者が少なく、シロアリ類以外にオオゾウムシと競合できる穿孔性昆虫はないという¹³⁾。また、オオクワガタ等とともに長寿の虫として知られ、5年以上生きた記録があり¹⁴⁾、筆者の飼育でも約3年半生存した (長野県下伊那郡産)。

48 ハスジカツオゾウムシ *Lixus acutipennis*

筆者が小学生の頃 (約50年前) には、道端のヨモギに多数のハスジカツオゾウムシやカツオゾウムシ *Lixus impressiventris* がついていた。余りに普通であったので、標本として残すこともなかった。ところが、いつの間にか見かけなくなってしまう。穂積¹⁵⁾も「最も普通」と書いている。道端のヨモギが少なくなったこともあるかもしれないが、他に原因があるのだろうか。温暖化の影響だろうか。

『なごやの昆虫』¹⁶⁾に紹介されているゾウムシ類は、オオゾウムシとハスジカツオゾウムシの2種である。

ま と め

名古屋市内で観察・採集したゾウムシ上科の45種とマメゾウムシ亜科（ハムシ上科ハムシ科）の1種を記録した。そのうち、ヒゲナガゾウムシ科5種（マダラヒゲナガゾウムシ *Opanthribus tessellatus*, シロヒゲナガゾウムシ *Platystomos sellatus*, シロモンヒゲナガゾウムシ *Gonotropis crassicornis*, シリジロヒゲナガゾウムシ *Androceras flabellicorne*, シリジロメナガヒゲナガゾウムシ *Phaulimia confinis*), チョッキリゾウムシ科1種（ハイイロチョッキリ *Cyllorhynchites ursulus*), ホソクチゾウムシ科1種（アカクチホソクチゾウムシ *Microconapion pallidirostre*), ゾウムシ科18種（コカシワクチブトゾウムシ *Lepidepistomodes griseoides*, ヒレルクチブトゾウムシ *Pseudoedophrys hilleri*, クリイロクチブトゾウムシ *Cyrtepidomus castaneus*, トゲアシゾウムシ *Anosimus decorates*, ケチビコフキゾウムシ *Sitona hispidulus*, ヤサイゾウムシ *Listroderes costirostris*, アルファルフアタコゾウムシ *Hypera postica*, オオタコゾウムシ *Donus punctata*, オリーブアナアキゾウムシ *Pimelocerus perforatus*, ニセマツノシラホシゾウムシ *Shirahoshizo rufescens*, エゾヒメゾウムシ *Baris ezoana*, アイノシギゾウムシ *Curculio aino*, クヌギシギゾウムシ *Curculio robustus*, クリシギゾウムシ *Curculio sikkimensis*, ニセコナラシギゾウムシ *Curculio conjugalis*, カシワノミゾウムシ *Orchetes japonicus*, アカアシノミゾウムシ *Orchetes sanguinipes*, アラゲマダラノミゾウムシ *Orchestes villosus*), マメゾウムシ亜科1種（チャバラマメゾウムシ *Callosobruchus ademptus*) については、『愛知県の昆虫』に名古屋市からの記録がないものである。

謝辞

キノコについて御教示下さった一色忍氏に深謝する。

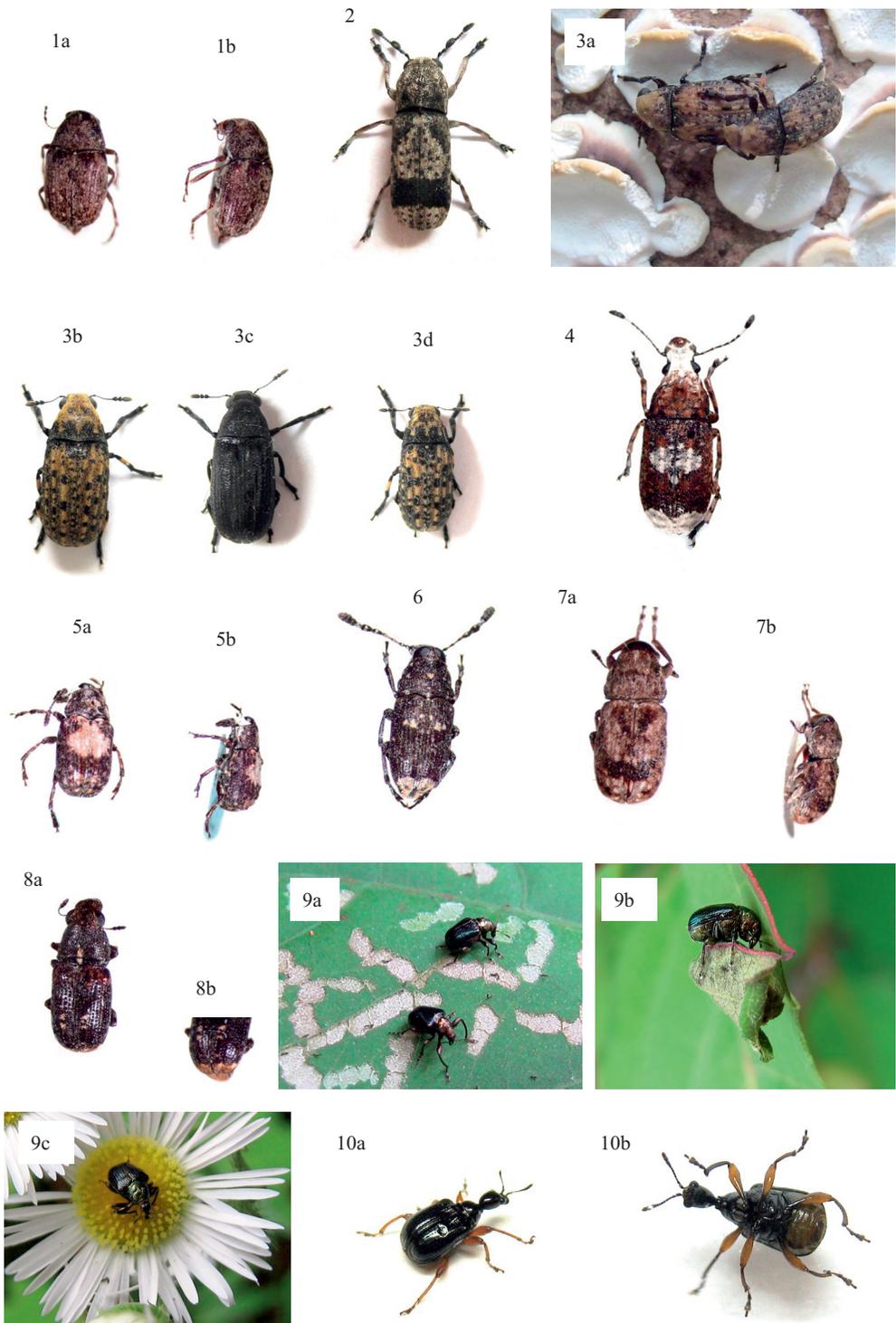
文 献

- 1) 石井実・大谷剛・常喜豊編：日本動物大百科10 昆虫Ⅲ 平凡社 1998 (ISBN4-582-54560-2)
- 2) 週刊朝日百科 動物たちの地球80 昆虫7 テントウムシ・カミキリムシほか 朝日新聞社 1993
- 3) 新訂原色昆虫大図鑑 第Ⅱ巻(甲虫篇) 北隆館 2007
- 4) 林匡夫, 森本桂, 木元新作編：原色日本甲虫図鑑(Ⅳ) 保育社 1984
- 5) 日本産ゾウムシデータベース <http://kogane.wem.sfc.keio.ac.jp/jwdb/>
- 6) 愛知県昆虫分布研究会：愛知県の昆虫(上) 愛知県 1990
- 7) 伊澤和義, 井上晶次, 白井勝巳：地域甲虫自然史第5号 愛知県のゾウムシ類 日本甲虫学会 2009
- 8) 鈴木知之：朽ち木にあつまる虫ハンドブック 文一総合出版 2009 (ISBN978-4-8299-0140-3)
- 9) 安田守, 沢田佳久：オトシブミハンドブック 文一総合出版 2009 (ISBN978-4-8299-1021-4)
- 10) 日本産幼虫図鑑 学研 2005 (ISBN4-05-402370-3)

内 藤 通 孝

- 11) 穂積敏文：東海昆虫誌（第25報）ゾウムシ科（その2）・オサゾウムシ科 佳香蝶 35：1-9, 1983
- 12) 黒沢良彦, 日高敏隆編：原色昆虫百科図鑑 小学館 1967
- 13) 柴田叡弼, 富樫一巳編：樹の中の虫の不思議な生活 穿孔性昆虫研究への招待 東海大学出版会 2006 (ISBN4-486-01735-8)
- 14) 林長閑：甲虫の生活 幼虫のくらしをさぐる 築地書館 1986 (ISBN4-8067-2294-4)
- 15) 穂積敏文：東海昆虫誌（第24報）ゾウムシ科（その1）佳香蝶 34：57-64, 1982
- 16) 白田明正, 岡田正哉, 穂積俊文, 安藤尚, 蟹江昇：なごやの昆虫 名古屋昆虫館 1989

名古屋東山周辺の昆虫相



10c



10d



10e



11



12



13



14a



14b



15



16



17



18



19a



19b



20



21a



21b



22a



22b



23a



23b



名古屋東山周辺の昆虫相

